

日本学術会議 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会

iLEAPS 小委員会

第 26 期第 1 回 議事要旨

日 時： 令和 6 年 4 月 26 日（金）13:00～14:00

場 所： オンライン会場

出席者： 熊谷朝臣, 伊勢武史, 市井和仁, 植山雅仁, 片柳薫子, 加藤知道, 小谷亜由美, 近藤雅征,
佐藤永, 高梨聡, 仁科一哉, 野田響, 檜山哲哉, 持田陸宏（以上 敬称略・五十音順）

欠席者： 須藤健悟, 平野高司, 村岡裕由（以上 敬称略・五十音順）

配付資料：議事次第に記載あり

議事進行

（1）委員名簿の確認と自己紹介

- ・ 異議無し

（2）第 26 期 iLEAPS 小委員会の新体制について

- ・ 佐藤委員より、以下の新体制が提案され承認された。

佐藤永：議長、国際科学委員

近藤雅征：幹事、国際科学委員

市井和仁：幹事

（3）議事要旨提出に関する委員長一任、および小委員会委員間のメールアドレス共有について

- ・ 異議無し

（4）今年 9 月 26～27 日に名古屋大学 ISEE にて開催予定の科学会議について

- ・ 採択額は 14 万 4 千円。大気陸域海洋関係の研究集会は申請課題数が多かったため、1 課題当たりの申請額に対する充足率で 5 割弱、採択された全課題がこの金額になったと聞いている。
- ・ 例年通りのスケジュールでプログラム作成、広報などを行っていく。また、上記予算額から飲み物・お茶菓子代の 2000～4000 円を差し引いた大部分は、若い研究者（大学院生～ポスドククラス）の旅費に充てる。
- ・ 以上、異議無し。

（5）次回 iLEAPS 国際科学集会の日本招致について

iLEAPS 国際事務局作成の募集要項に対して、iLEAPS 日本委員会として応募することについて、了承を得た。以下、予算や準備に関する具体的な議論の抜粋である（敬称略）。

佐藤：近藤委員よりオールジャパン体制に本件に対応することが提案されており、私としても賛成である。とりあえず広島大学・JAMSTEC・国環研を合同開催機関に含めることを考えているが、その場合、どの程度の予算が各機関から得られるか、ある程度の見積もりが必要となる。言い出しっぺの私が動いておらず JAMSTEC からの予算手当についての情報を持っていないが、国環研はどうか？

仁科：国環研内競争資金 C で 150 万円取得できる可能性有り。また三枝さん（国環研・地球システム領域長）の裁量予算の一部を使用できるのでは。

野田：アジアフラックスワークショップの費用のため、上記の国環研内競争資金 C を使った経験あり。用途については比較的自由であったと記憶している。

市井：アルコール飲料の提供は、どのような公的予算を使うにしても難しいのでは。

仁科：予算使用の自由度を高くするために、委託業者にやらせる方法もある。以前、御殿場で会議を開催した際に、そのような枠組みを利用した経験あり。

近藤：そのような委託業者に、5 日間のフル日程で依頼した場合、幾らほどかかるのか？

佐藤：日本生態学会大会の企画委員としての経験、また前回オークランド大会の大会主催者からの情報より、ハイブリッド形式で開催すると、機材レンタルや人員のための費用がとても大きい。なので、ハイブリッド形式で開催するのか、オンサイト参加者のみで開催するのかによって、かなり金額が異なるだろう。

檜山：近畿日本ツーリストさんに依頼して、ISAR 会議を開催した経験あり。ハイブリッド形式で実施したが、その際にはハイブリッド器材の操作は、準備委員会自身で行う事により開催費用を抑えた。

加藤：国内の学生さんの参加金額を抑える代わりに、機材操作・タイムキーパーなどを依頼する方法もあるのでは。ちなみに、GEWEX 札幌大会の参加費は 1 人 7 万円と高額で、私の研究室が所在する札幌市で開催されるにも関わらず、学生さんを数名しか送れない状況である。日本の若い研究者が参加する際のハードルは下げるべきでは。

近藤：実際に AOGS 大会ではそうしている。今大会で、必要な現地スタッフは 10 名くらいだろうから、十分可能な方法だろう。日本国内の学生さんで、安い参加費オプションを選択した方については、会議開催日の 2-3 日前に広島入りして頂いて、各種の準備を手伝ってもらってはどうか？

佐藤：他に、本会議の事務委託費用も必要となるのでは。この規模の会議では、例えばビザに関するメールのやりとりだけでも、相当な事務作業が発生するはずなので、業者を入れるべきだろう。

野田：過去に業者に依頼した会議では、2016 年に 100 人規模で開催した会議（対面のみ、4 日間）では 220 万円払った。

檜山：ISAR 大会では飲み物代を名古屋大学 ISEE が負担した。ISEE も共催に加えて頂ければ、飲み物代などに使用可能な予算約 50 万円を提供できる見通し。

佐藤：本大会の今後の相談、基本的にメールベースで進めていくが、具体的な多くの作業が発生する開催 1 年ほど前から Slack などに移行させたい。メールベースのままだと、スレッドが乱立して、情報が錯綜してしまうので。

(6) iLEAPS-Japan の今後の活動について（研究集会・事務体制・web 管理など）

・ 25 期までの活動を踏襲し、加えて上記の国際大会の招致準備を行う。

・ 佐藤委員長に、国際科学運営委員会から頻繁に案内メールが届くが、これらは ChatGPT で簡単に翻訳して、委員の皆さんに転送している。これらの情報の日本国内の展開のため、前回の話し合いの結果に基づいて、以下のカテゴリー別に情報担当者を決めている。今後も、この態勢でお願いしたい。

- a) カーボンニュートラル関係：伊勢委員
- b) 陸域生態関係：仁科委員
- c) 大気化学関係：須藤委員

iLeaps 日本委員会 WebSite は、国立環境研 Website のサブディレクトリーに移転済みである。更新したページのアップは、国環研所属の仁科委員に、引き続き依頼したい。

(7) その他

近藤委員より情報提供：

マレーシアプトラ大学(UPM)で Senior Lecturer をされている Eliani Ezani さんが中心となって、iLEAPS South-East Asia を立ち上げようという計画が進行している。炭素収支や環境公衆衛生などを扱うセッションの開催などを行っていききたいとのこと。

次々回の国内集会についての議論（敬称略）：

檜山：今年は名大 ISEE で研究集会を開催するが、例えば来年の会議を広島国際会議場で開催して、我々の下見を兼ねるといえるのはどうか？1 部屋だけとかお借りして。

近藤：広島駅の近くに広島駅サテライトラボがあるので、そちらで開催はどうか？その場合、会場費はかからない。広島国際会議場の見学は、その折に行ってはどうか？

佐藤：良い提案かと思う。次々回の国内大会では、そのように段取りしたい。

以 上